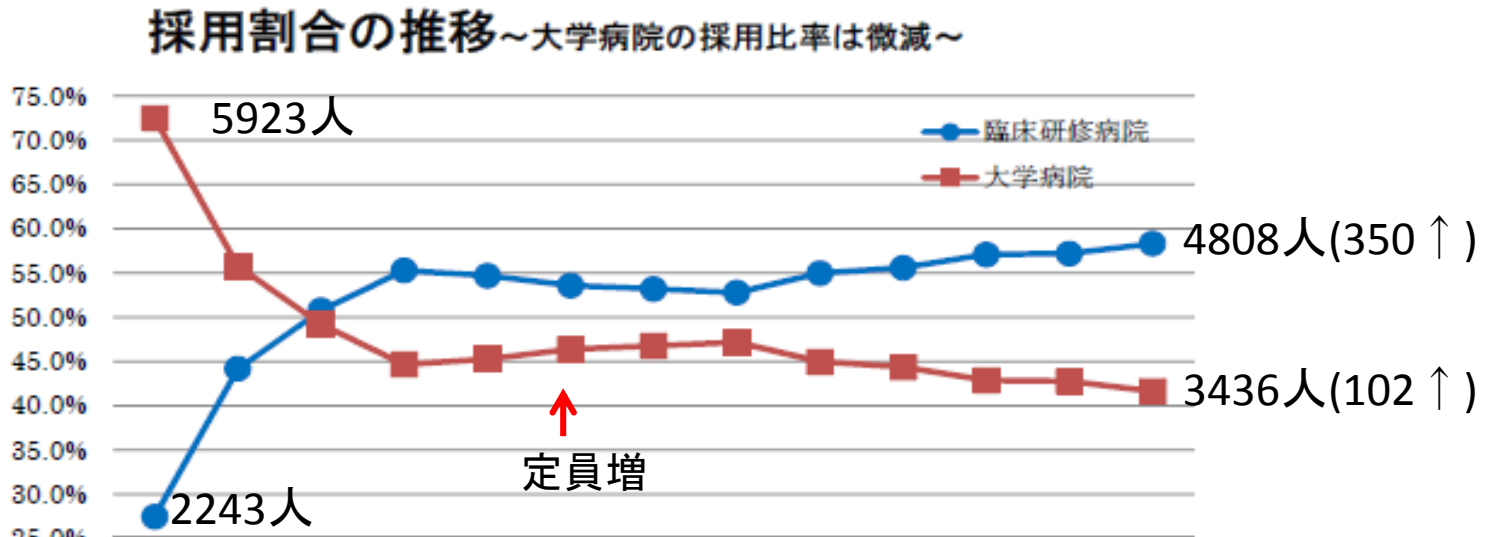
平成27年度 全国大学附属病院研修医に関する実態調査報告

全国医学部長病院長会議
地域医療検討委員会

はじめに

・平成16年の臨床研修制度発足**以前**は、卒業生の約70%～75%が大学に残り、卒後研修、研究等に従事し、大学は地域医療機関への医師派遣機能を担っていた。
・臨床研修制度発足**以降**、大学病院で臨床研修を受ける者は大幅に減少した。
・全国医学部長病院長会議では、このような状況を踏まえ、平成18年度から大学付属病院における臨床研修者および平成20年度からは臨床研修修了者の受け入れ状況の実態を追加し調査してきた。27年度の集計結果を報告する。

図1



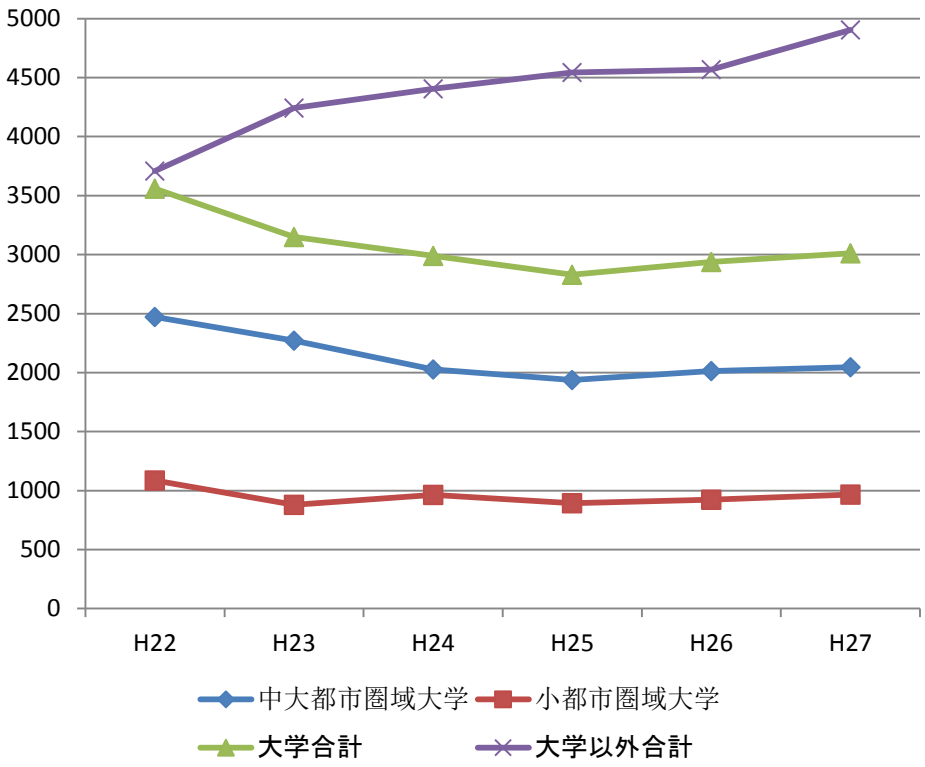
	H15'	H16'	H17'	H18'	H19'	H20'	H21'	H22'	H23'	H24'	H25'	H26'	H27'
臨床研修病院	27.5%	44.2%	50.8%	55.3%	54.7%	53.6%	53.2%	52.8%	55.0%	55.6%	57.1%	57.2%	58.3%
大学病院	72.5%	55.8%	49.2%	44.7%	45.3%	46.4%	46.8%	47.2%	45.0%	44.4%	42.9%	42.8%	41.7%

医政局医事課医師臨床研修推進室発表

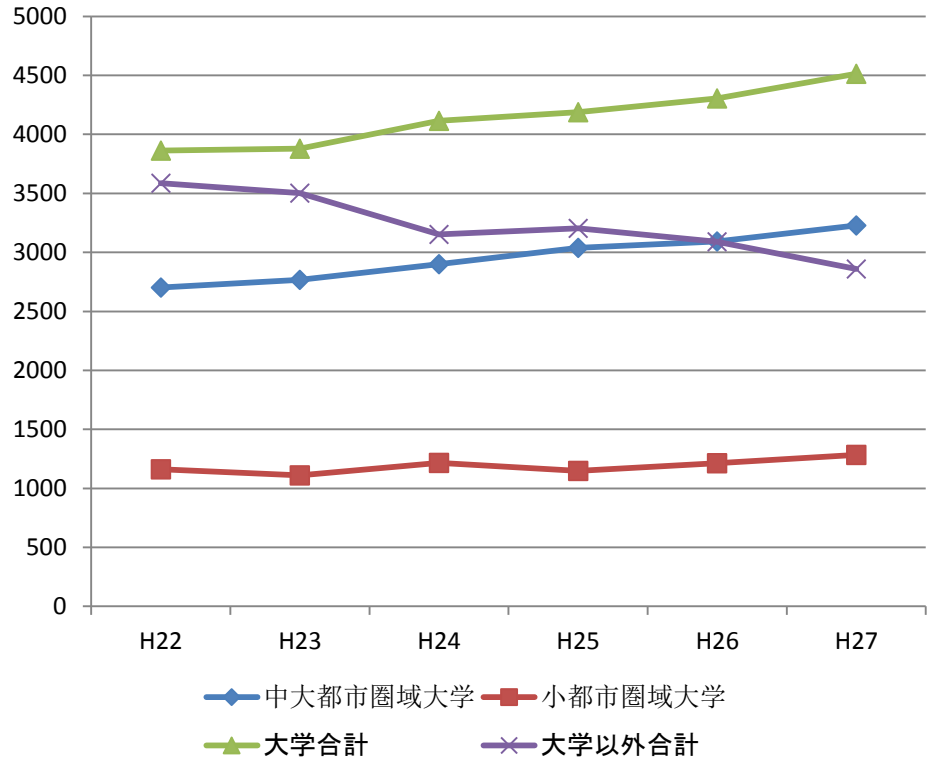
臨床研修医採用数と同修了者の受け入れ数の推移
ー中大都市（人口50万以上）と小都市（人口50万未満）の比較ー

・臨床研修医採用数はほぼ横ばいだが、臨床研修修了者数は都市部と地方で乖離してきた。

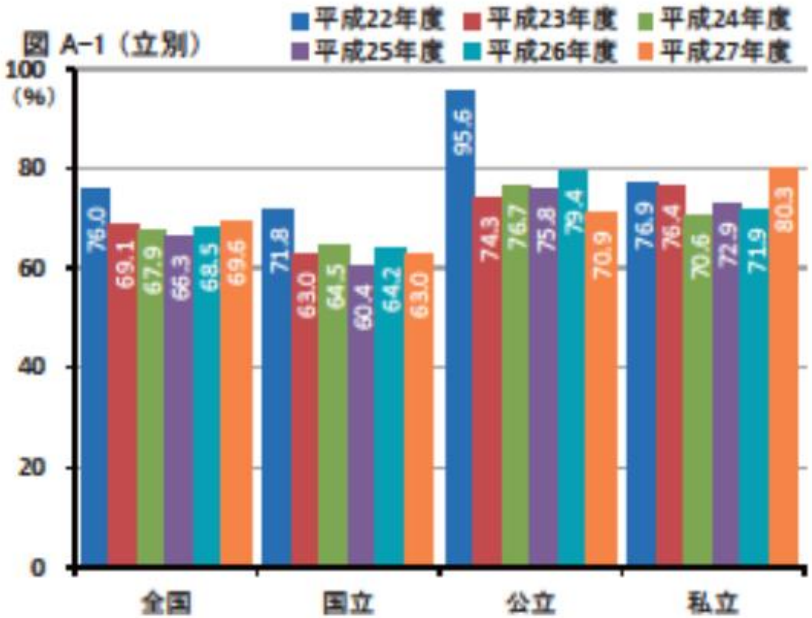
臨床研修医



臨床研修修了者



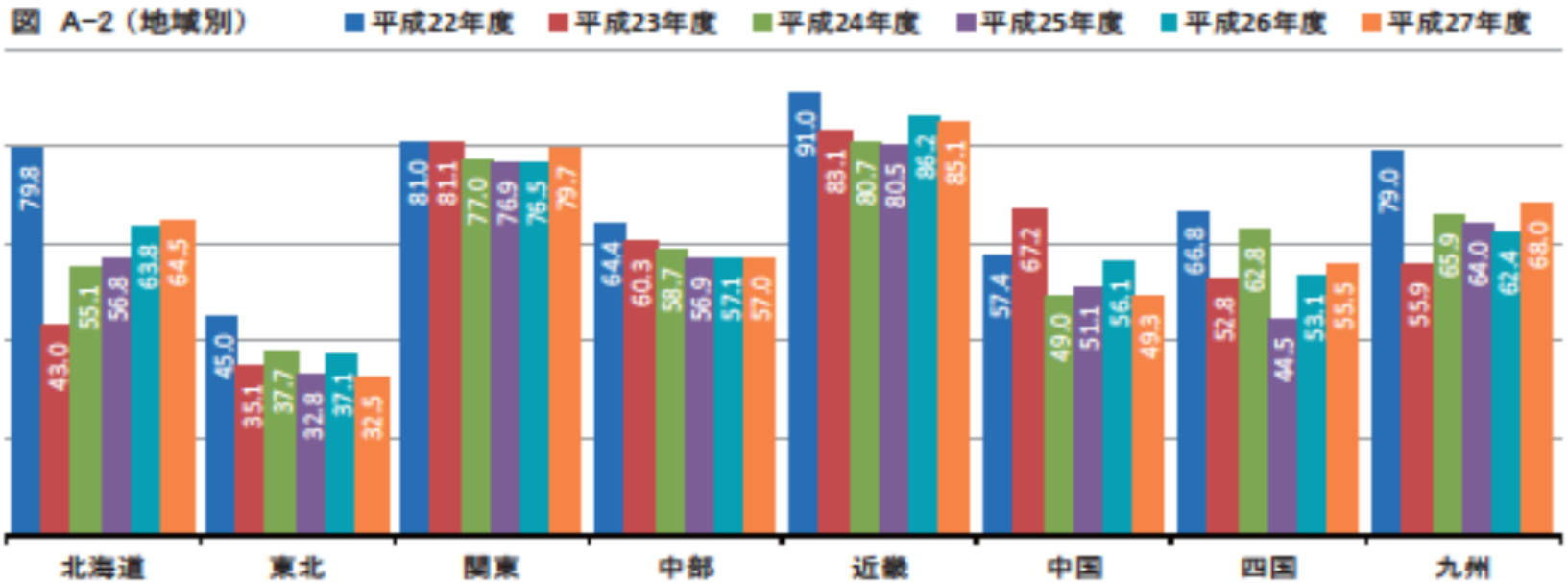
大学附属病院臨床研修医の充足率



臨床研修医の充足率（臨床研修者数/臨床研修者定員）は

・全体では若干増加傾向となっている
設立別では国立がやや低い。

・地域別では相変わらず東北で著しく低く、次いで中国、四国、中部で低い傾向が続いている。北海道は増加傾向にある。



臨床研修修了者の受け入れ率

国試合格者のうち臨床研修終了後、大学病院に受け入れた率（臨床研修修了者数／国試合格者数）は、全国ではやや増加傾向にある。

地域別では四国、東北で低く、次いで四国、中国、中部で低い傾向が続いている。近畿、北海道は増加傾向にある。

図 C−1　11年間の受入れ率の推移　（都市別）

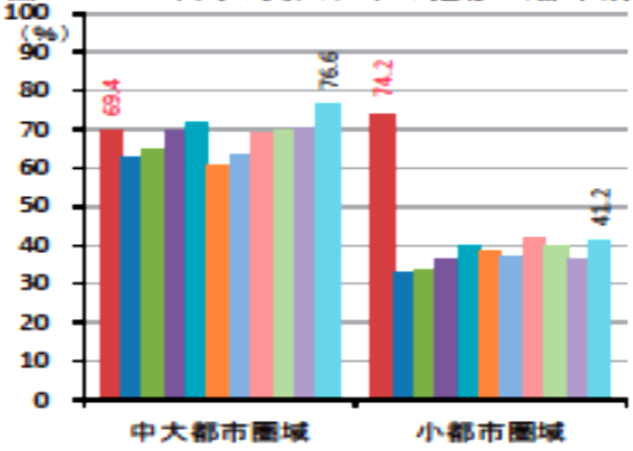


図 C−2　11年間の受入れ率の推移　（立別）

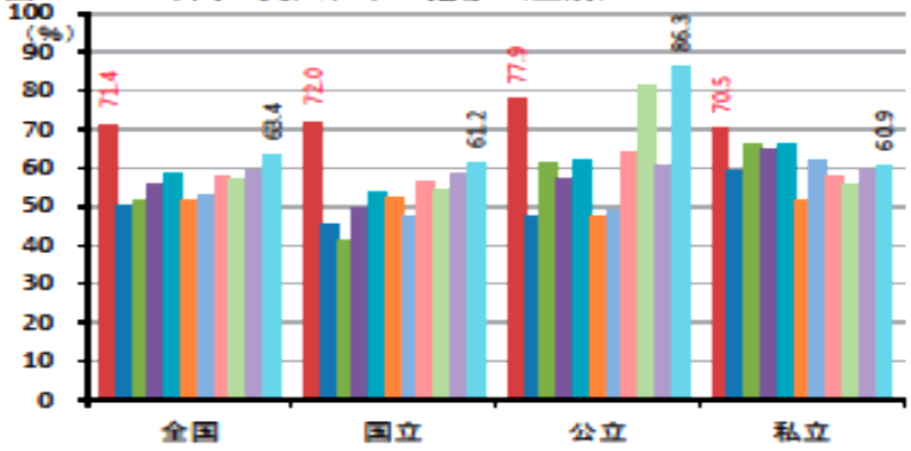
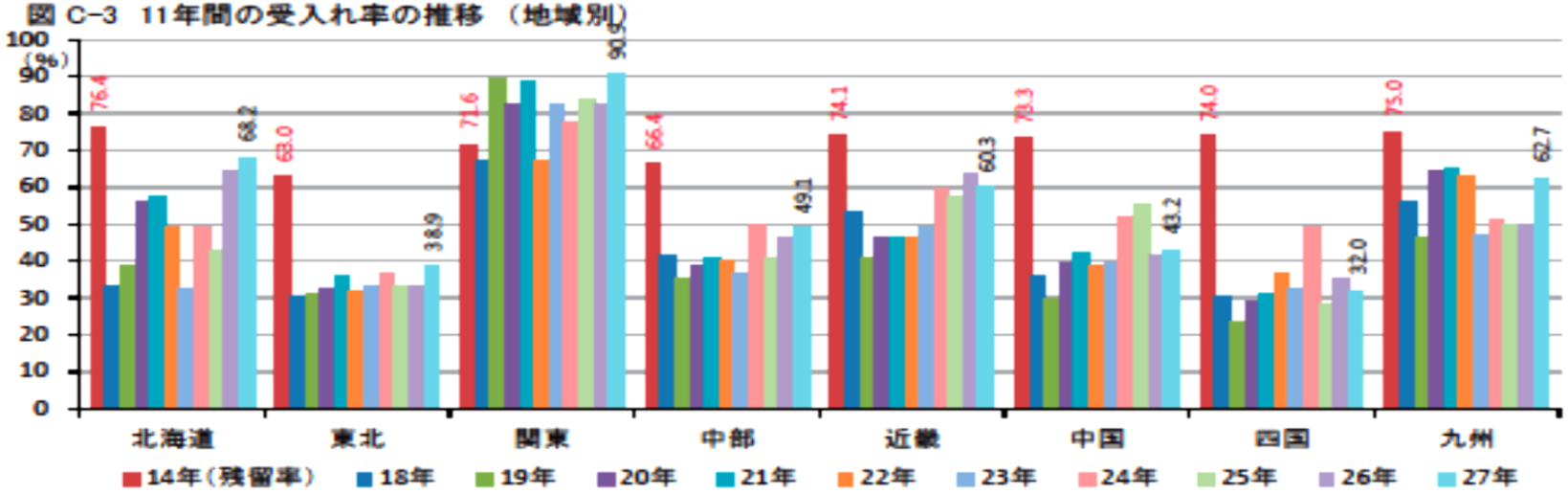


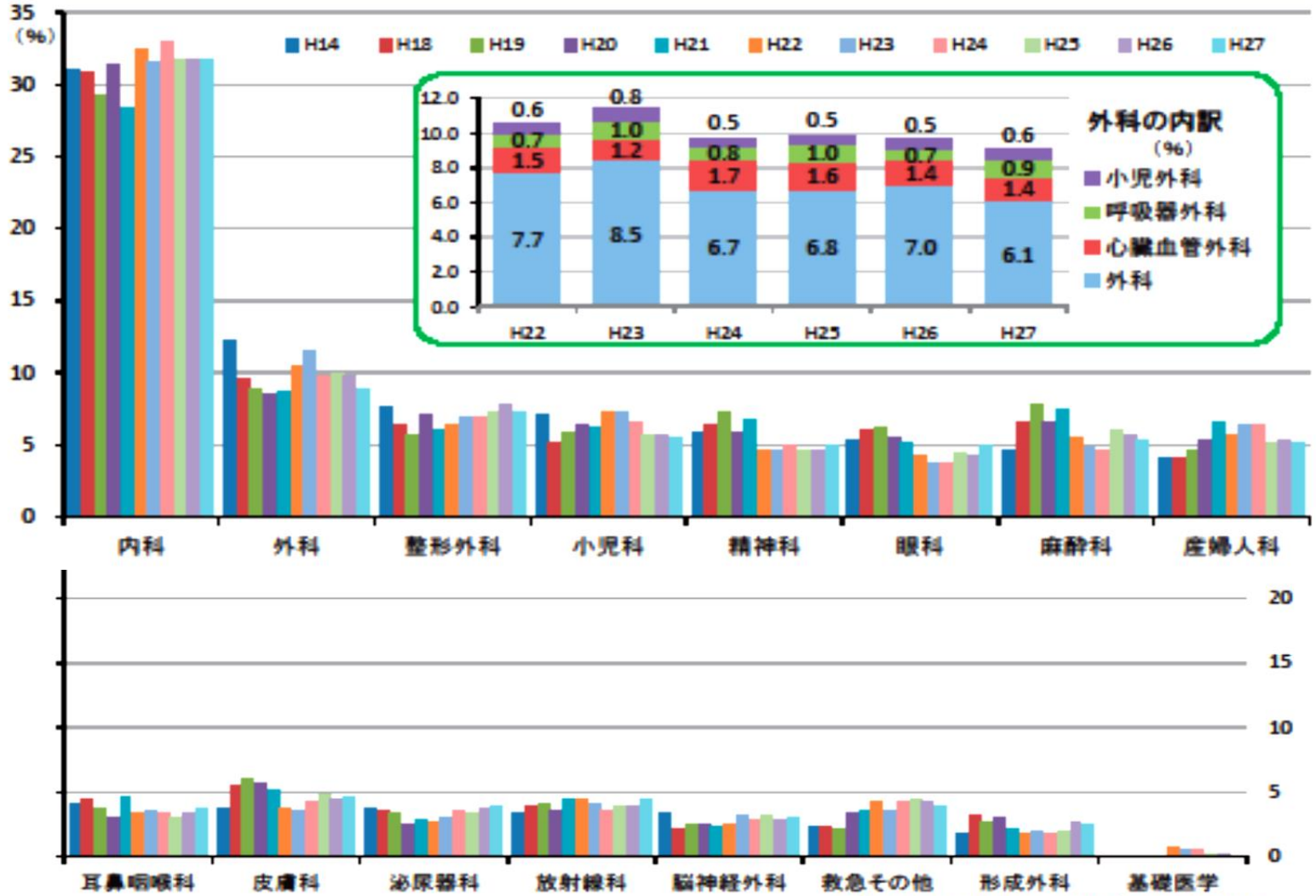
図 C−3　11年間の受入れ率の推移　（地域別）



受け入れた臨床研修修了者の進路（診療科別）

・やや増加傾向を示している診療科は、整形外科と泌尿器科である。

図 8-1 帰学者の進路割合の推移（診療科別）（10年間）※22～26年度の外科は外科・心臓外科・呼吸器外科・小児外科の合計

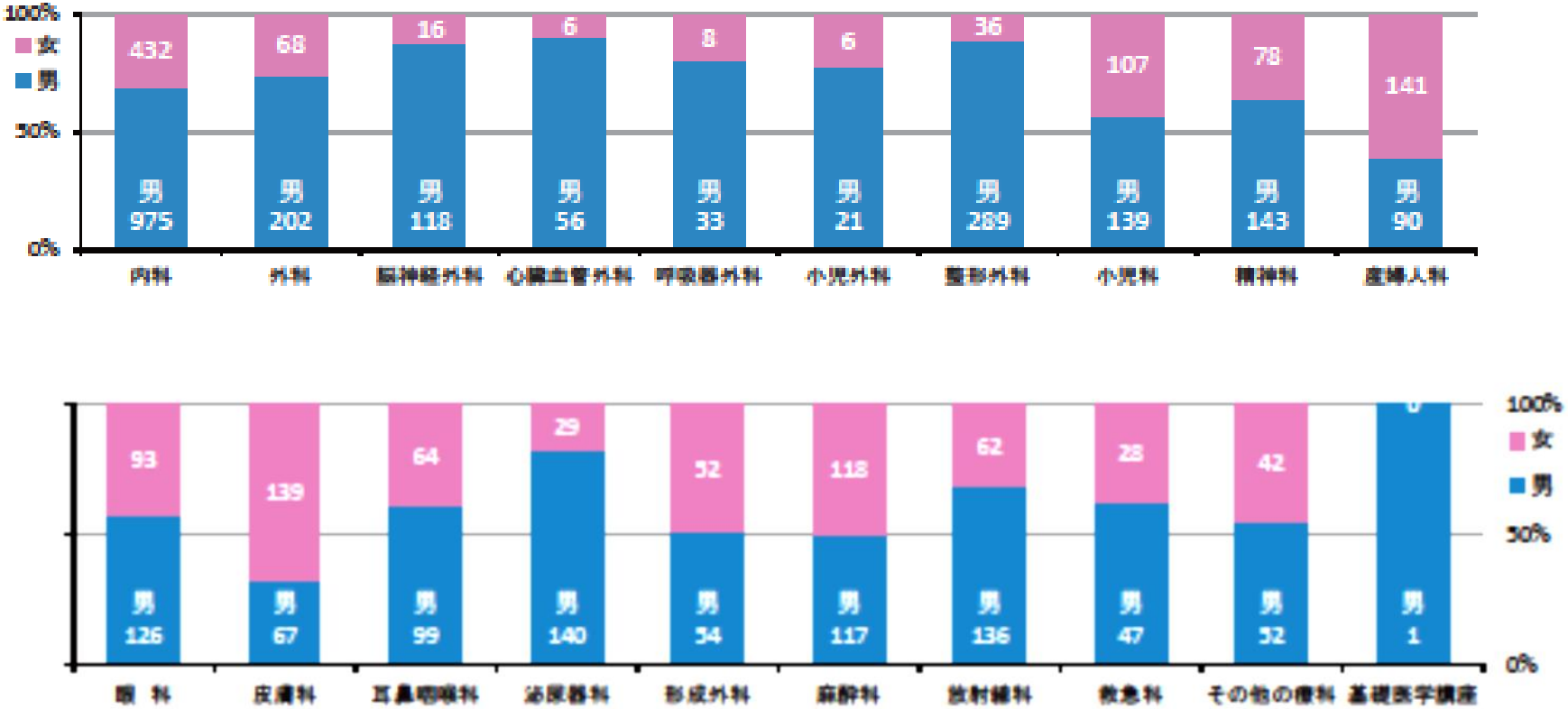


※「基礎医学」の項目は、H22年度より調査を開始。
※「救急その他」はH21年度までに習い合算した数値を採用。

臨床研修修了者の診療科別、男女の割合

・女性医師が50%以上の診療科は、産婦人科、皮膚科、麻酔科であった。
・国家試験合格者の約3割強が女性で、男性に比べ女性医師の就業率は低いため、積極的なサポートが必要である。

図 8-2 H27年 男女別 帰学者の進路（診療科別）



まとめ

1. 大学付属病院における臨床研修医の充足率は若干増加傾向にある。
2. 臨床研修修了者の受け入れ率は、微増傾向にある。しかし、小都市圏域では、中大都市圏域に比べ著しく低い状況が続き、改善の傾向を認めない。
   この状況が続けば、国試合格者の増加と相まって、都市部での医師過剰と地方での医師不足の継続が予想される。
   「医師の地域偏在・診療科の偏在」については、AJMCにおいて新たなWGを設置し検討を始めている。
3. 今後は、医学部定員増による国試合格者数の増加や分野別専門医制度などが臨床研修医、同修了者の分布に影響を与えるものと思われ、動向を注視する必要がある。
4. 初期臨床研修医制度発足以来10年以上が経過した。臨床研修医の偏在とともに大学に所属する医師数が減少し、地域への医師派遣機能を含む大学の機能が不全に陥り、医学・医療を推進する 原動力となる研究力の低下も表面化している。
   現在、全国の大学で進められている国際標準を見据えた臨床実習の拡充と2年後に始まる分野別専門医制度を見据え、一貫した卒前・卒後教育を目指し、臨床研修制度の抜本的見直しを図る必要がある。